

管内地域銀行の平成 27 年 3 月期決算の概要

1. 損益の状況

- 実質業務純益は、債券等関係損益の増加等により、26 年 3 月期に比べ 7.4%の増加。
- 当期純利益は、実質業務純益が増加したことに加え、与信関係費用が減少したこと等により、26 年 3 月期に比べ 14.3%の増加。

(単位：億円)

	25 年 3 月期	26 年 3 月期	27 年 3 月期	前年同期比	増減率
業務粗利益	6,095	6,055	6,248	193	3.2%
資金利益	5,297	5,375	5,311	▲64	▲1.2%
役務取引等利益	491	508	564	56	11.0%
債券等関係損益	266	121	326	205	169.4%
うち、債券等償却(▲)	▲2	0	▲1	▲1	—
経費(▲)	▲4,019	▲4,058	▲4,103	▲45	▲1.1%
実質業務純益	2,075	1,996	2,144	148	7.4%
与信関係費用(▲)	▲334	▲164	▲86	78	47.6%
株式等関係損益	▲20	160	198	38	23.8%
うち、株式等償却(▲)	▲48	▲7	▲6	1	14.3%
当期純利益	1,194	1,231	1,407	176	14.3%

(参考)

	25 年 3 月期	26 年 3 月期	27 年 3 月期
預金等(末残)	37.7 兆円	38.9 兆円	40.5 兆円
貸出金(末残)	27.9 兆円	28.8 兆円	29.7 兆円

預金等：預金＋譲渡性預金

2. 不良債権の状況

- 不良債権額は 26 年 3 月期に比べ減少。不良債権比率は 0.4P 低下。

	25 年 3 月期	26 年 3 月期	27 年 3 月期
不良債権額	9,196 億円	8,174 億円	7,293 億円
不良債権比率	3.2%	2.8%	2.4%

3. 自己資本比率の状況

- 国際統一基準行の総自己資本比率は、26 年 3 月期に比べ 0.5P 低下。
- 国内基準行の自己資本比率についても、26 年 3 月期に比べ 0.5P 低下。

(国際統一基準行：2 行)

(国内基準行：10 行)

	26 年 3 月期	27 年 3 月期
総自己資本比率	15.3%	14.8%
Tier1 比率	13.7%	13.4%
普通株式等 Tier1 比率	13.7%	13.4%

	26 年 3 月期	27 年 3 月期
自己資本比率	10.8%	10.3%

- (注 1) 計数は単体ベース。今後業績修正等により変更の可能性がある。
 (注 2) 25 年 3 月期から 27 年 3 月期の集計対象は管内 12 行(地方銀行 7 行、第二地方銀行 5 行)
 (注 3) 経費、与信関係費用、債券等償却及び株式等償却について、正の値は益を、負の値は損を表す。
 (注 4) 国際統一基準行は 25 年 3 月期、国内基準行は 26 年 3 月期より、バーゼル 3 の適用を開始。
 (注 5) 増減欄は、正の値が利益の押上げを、負の値が利益の押下げを表す。

【お問合せ先】

財務省 東海財務局 金融監督第一課
TEL：(052) 951-2493



管内地域銀行の平成27年3月期決算の概要

【参考資料】

平成27年6月9日

東 海 財 務 局

はじめに

東海財務局管内に本店を置く銀行(以下の12行)の平成27年3月期決算について、取りまとめを行ったのでこれを公表する。

管内の金融機関 (全国銀行協会金融機関コード順。 * は国際統一基準行。)

【静岡県内】

静岡銀行(静岡市) *、スルガ銀行(沼津市)、清水銀行(静岡市)、静岡中央銀行(沼津市)

【岐阜県内】

大垣共立銀行(大垣市)、十六銀行(岐阜市)

【愛知県内】

愛知銀行(名古屋市)、名古屋銀行(名古屋市) *、中京銀行(名古屋市)

【三重県内】

三重銀行(四日市市)、百五銀行(津市)、第三銀行(松阪市)

※ 各計数は、各行の公表資料及び当局調査に基づく計数(単体ベース)を集計したものである。

※ 各計数は、暫定の集計値に基づくものであり、今後変動があり得る。

※ 「管内」の計数の対象金融機関は、以下のとおり。

24年3月期の集計対象は13行(地方銀行7行、第二地方銀行6行)

25年3月期から27年3月期の集計対象は12行(地方銀行7行、第二地方銀行5行)

「全国」の計数の対象金融機関は、以下のとおり。

24年3月期の集計対象は107行(地方銀行64行、第二地方銀行42行及び埼玉りそな銀行)

25年3月期から27年3月期の集計対象は106行(地方銀行64行、第二地方銀行41行及び埼玉りそな銀行)

※ 東海3県とは、愛知県、岐阜県、三重県に本店を置く地方銀行、第二地方銀行。

※ 各計数の比率は、加重平均。端数処理は、東海管内の計数集計においては、率による表示部分は単位未満四捨五入、額による表示部分は、単位未満切捨てで処理。端数整理後の計数により計算している項目もある。

損益の状況

(単位:億円)

	25年3月期		26年3月期		27年3月期		前期比	
	管内	(参考)全国	管内	(参考)全国	管内	(参考)全国	管内	(参考)全国
業務粗利益	6,095	48,543	6,055	47,808	6,248	47,546	193	▲262
資金利益	5,297	41,048	5,375	41,048	5,311	40,241	▲64	▲807
役務取引等利益	491	4,790	508	5,096	564	5,550	56	454
債券等関係損益	266	1,958	121	926	326	909	205	▲17
うち債券等償却(▲)	▲2	▲142	0	▲41	▲1	▲24	▲1	17
経費(▲)	▲4,019	▲31,143	▲4,058	▲31,171	▲4,103	▲31,356	▲45	▲185
実質業務純益	2,075	17,399	1,996	16,636	2,144	16,189	148	▲447
与信関係費用(▲)	▲334	▲3,650	▲164	▲1,787	▲86	▲936	78	851
株式等関係損益	▲20	▲811	160	1,256	198	1,157	38	▲99
うち株式等償却(▲)	▲48	▲721	▲7	▲63	▲6	▲28	1	35
当期純利益	1,194	8,157	1,231	10,709	1,407	10,629	176	▲80

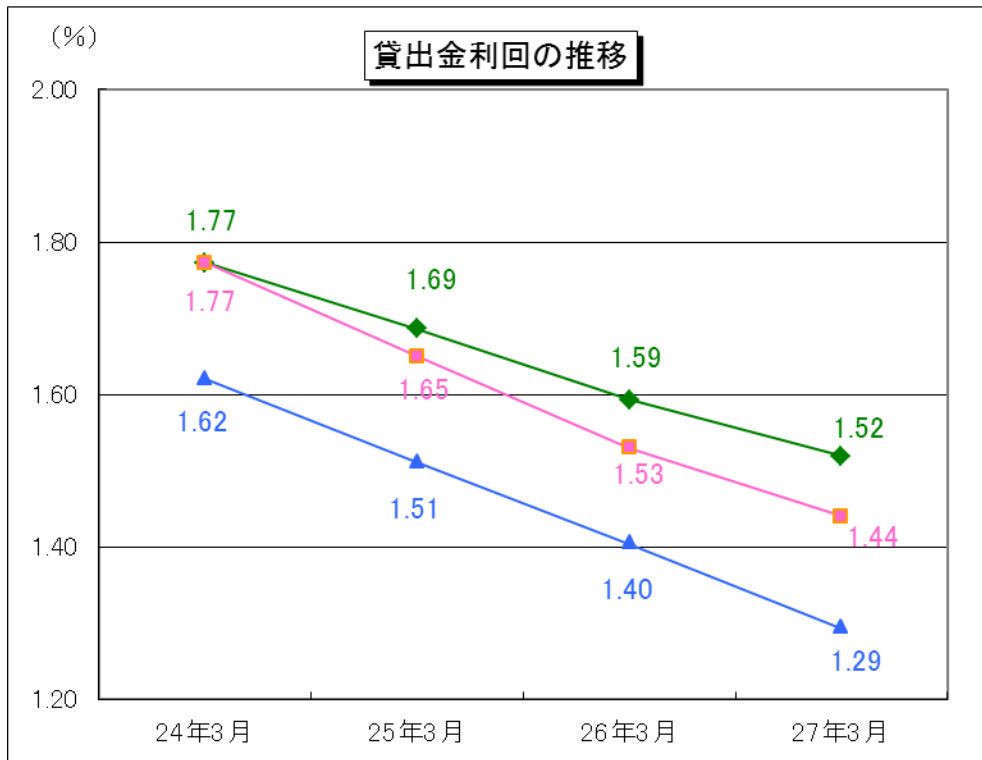
● 業務粗利益 = 「資金利益」+「役務取引等利益」+「その他業務利益等」

● 実質業務純益 = 「業務粗利益」-「経費」

● コア業務純益 = 「実質業務純益」-「債券等関係損益」 ※債券等関係損益=債券等関係収益(売却益+償還益)-債券等関係損失(売却損+償還損+償却)

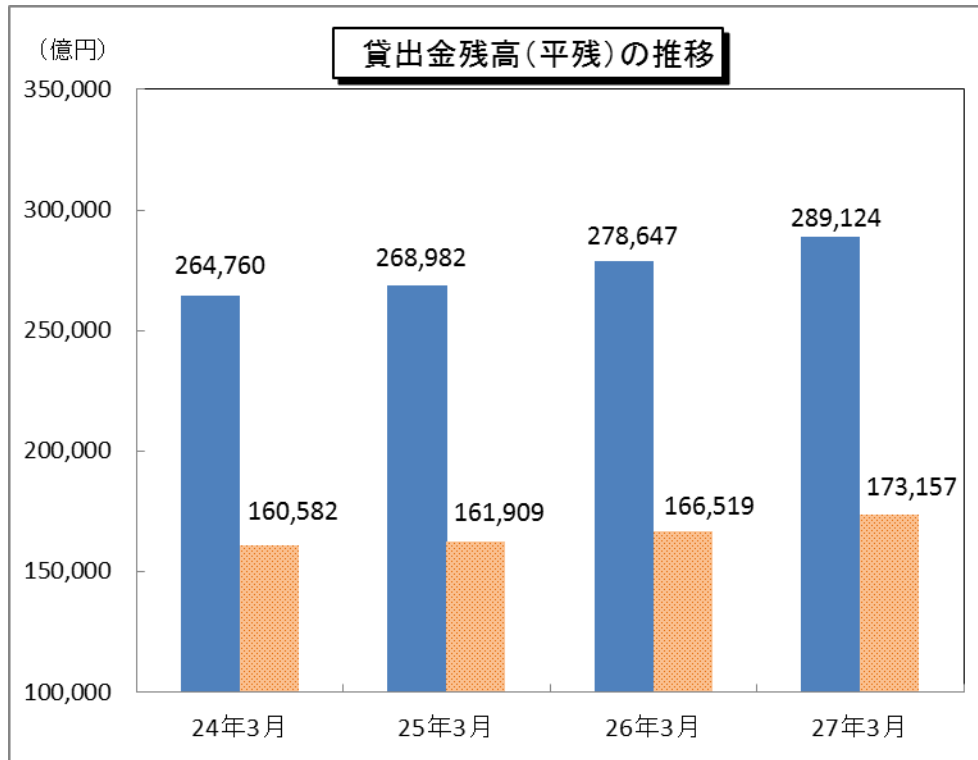
貸出金利回の状況

貸出金利回の推移



◆ 東海管内 ▲ 東海3県 ■ 全国

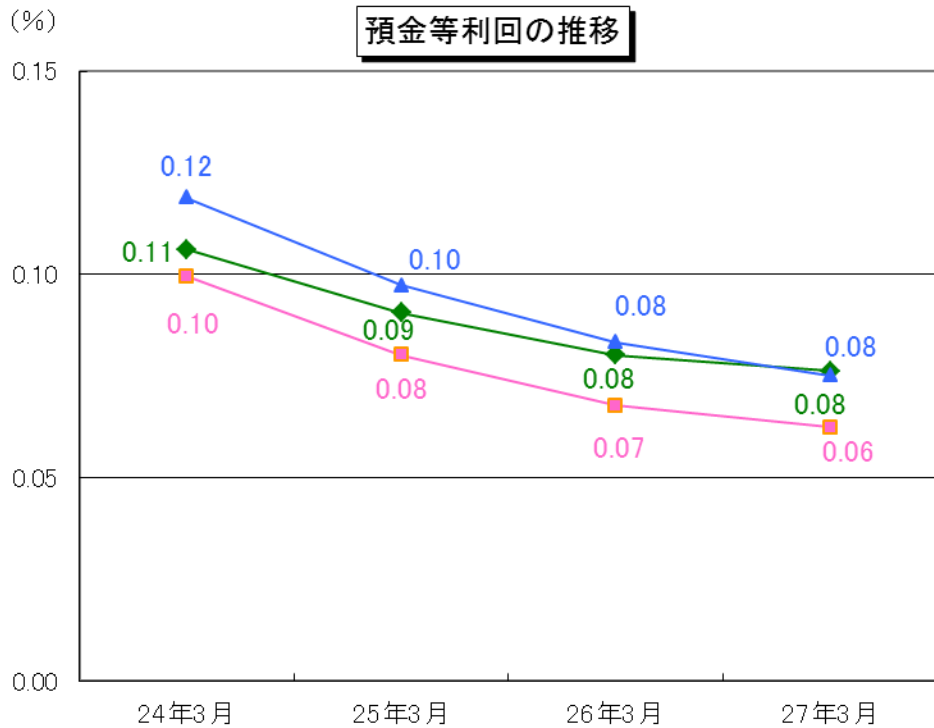
貸出金残高(平残)の推移



■ 東海管内 ■ 東海3県

預金等利回の状況

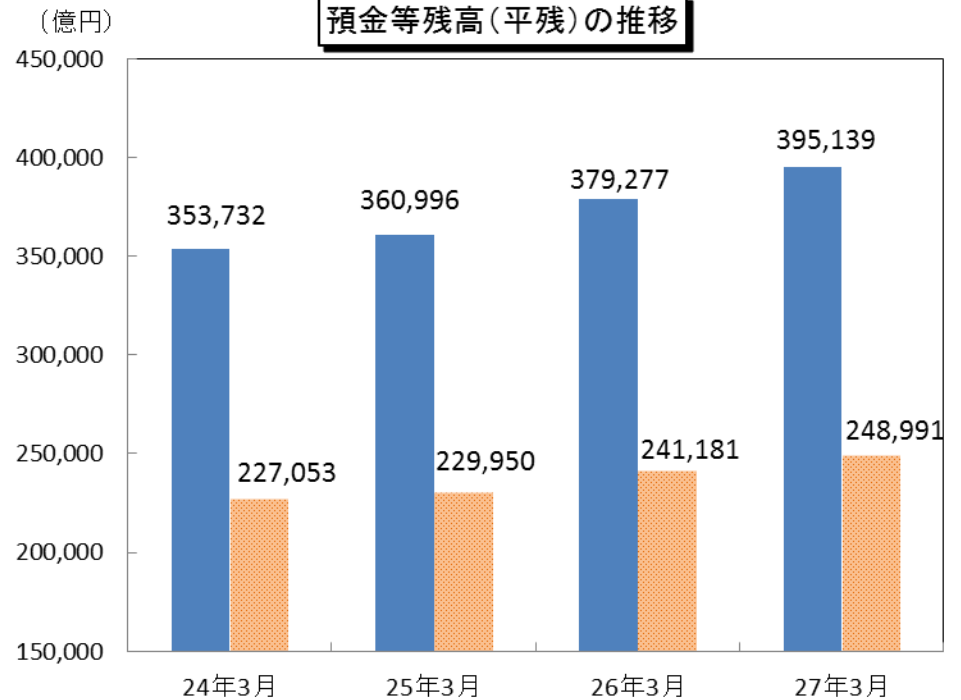
預金等利回の推移



(注) 預金等＝預金＋譲渡性預金

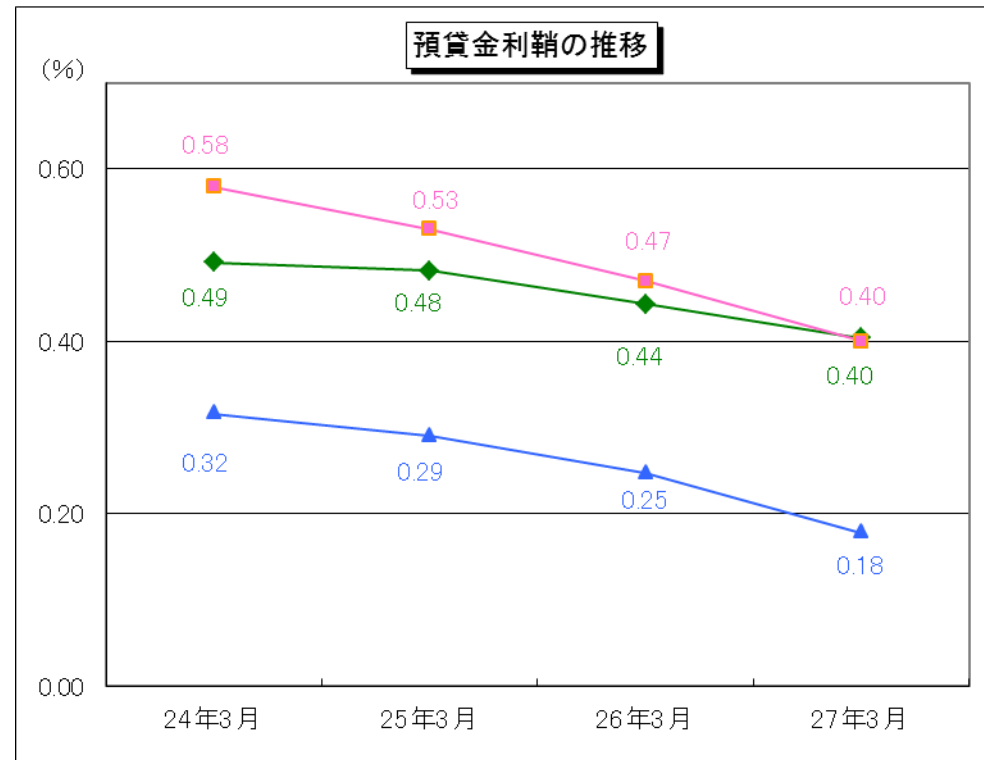
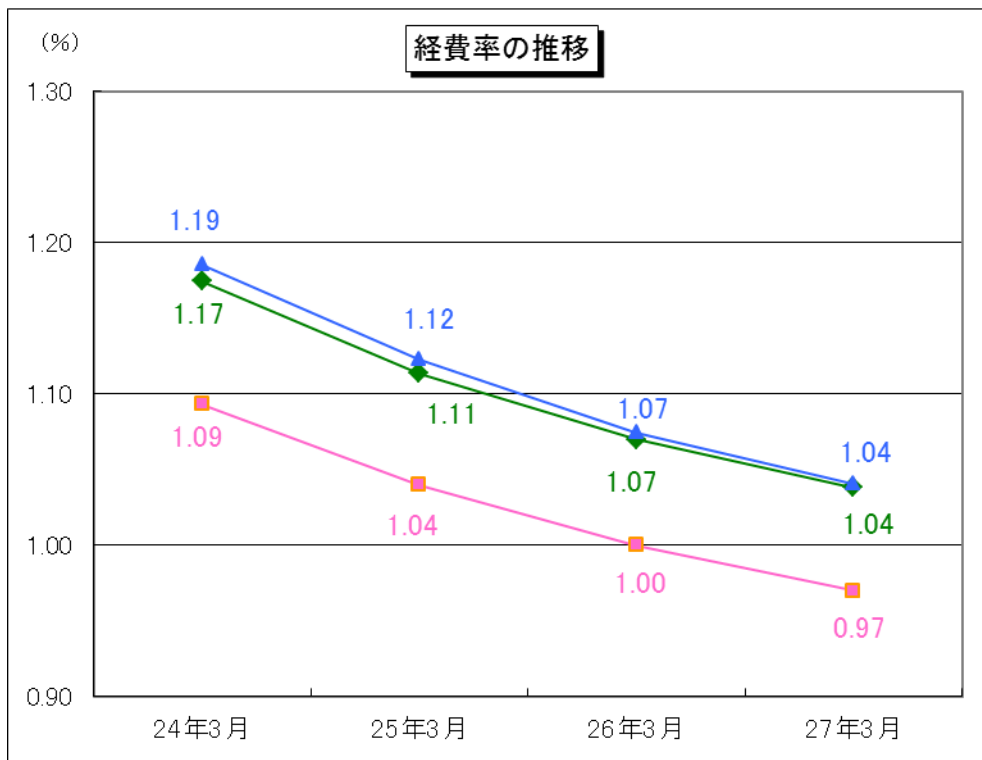
◆ 東海管内 ▲ 東海3県 ■ 全国

預金等残高(平残)の推移



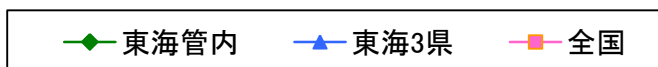
■ 東海管内 ■ 東海3県

経費率及び預貸金利鞘の状況



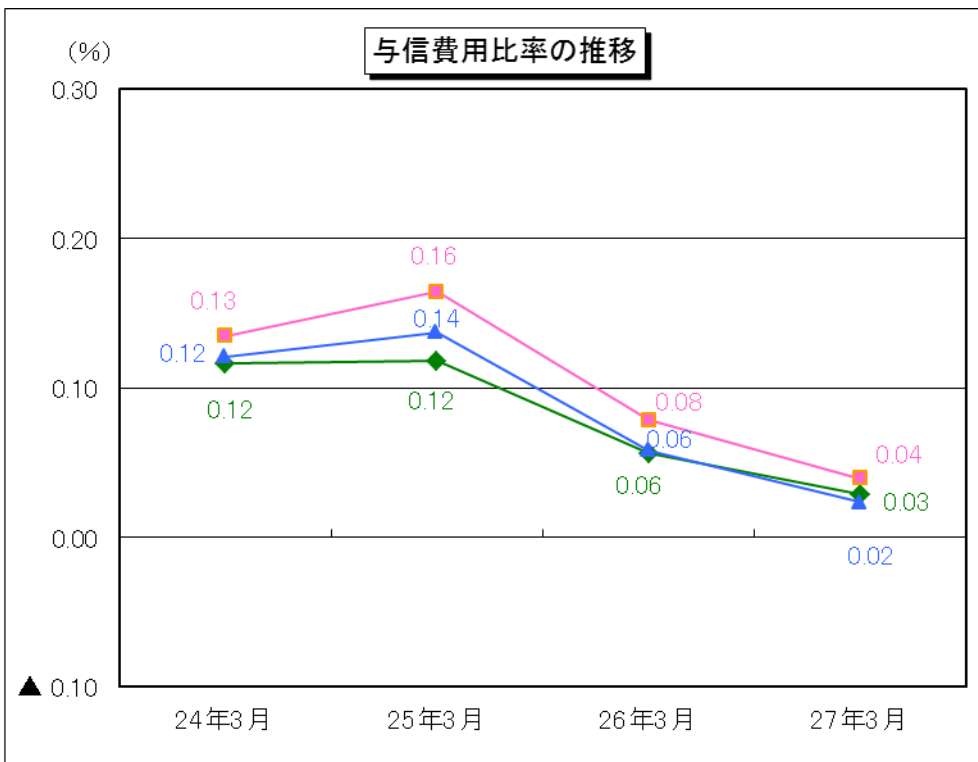
(注) 経費率(%) = 経費 ÷ 預金等(平残) × 100

(注) 預貸金利鞘(%) = 貸出金利回(%) - 預金債券等原価(%)
 預金債券等原価(%) = (預金等利息 + 経費) ÷ 預金等(平残) × 100



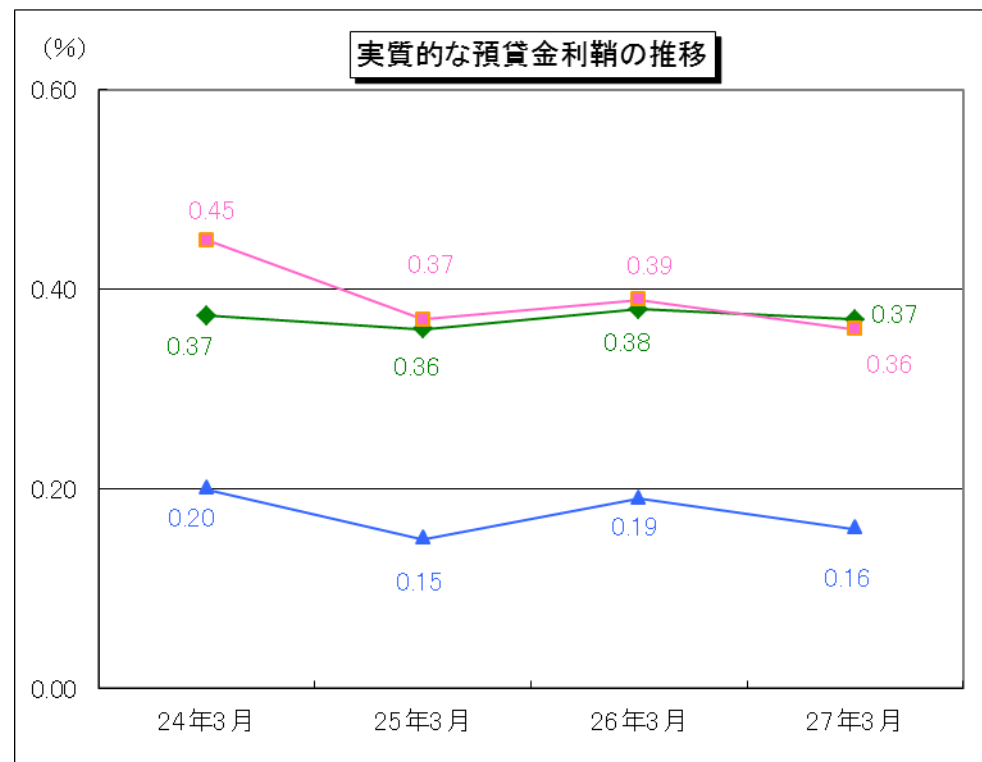
実質的な預貸金利鞘の状況

与信費用比率の推移

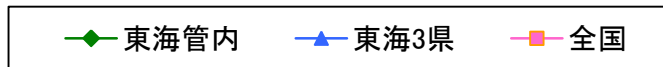


(注) 与信費用比率 (%) = 与信関係費用 ÷ 総与信 × 100

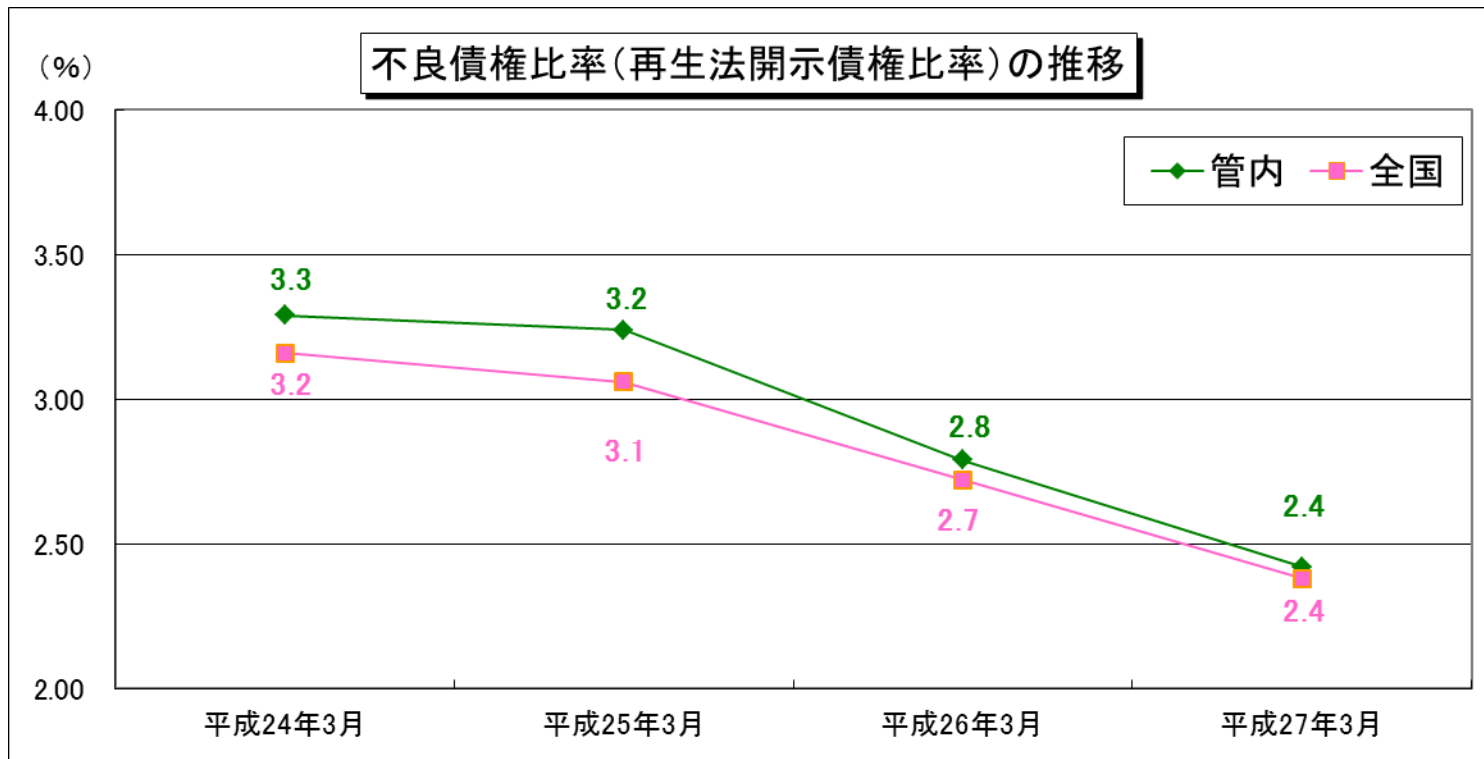
実質的な預貸金利鞘の推移



(注) 実質的な預貸金利鞘 (%) = 預貸金利鞘 (%) - 与信費用比率 (%)

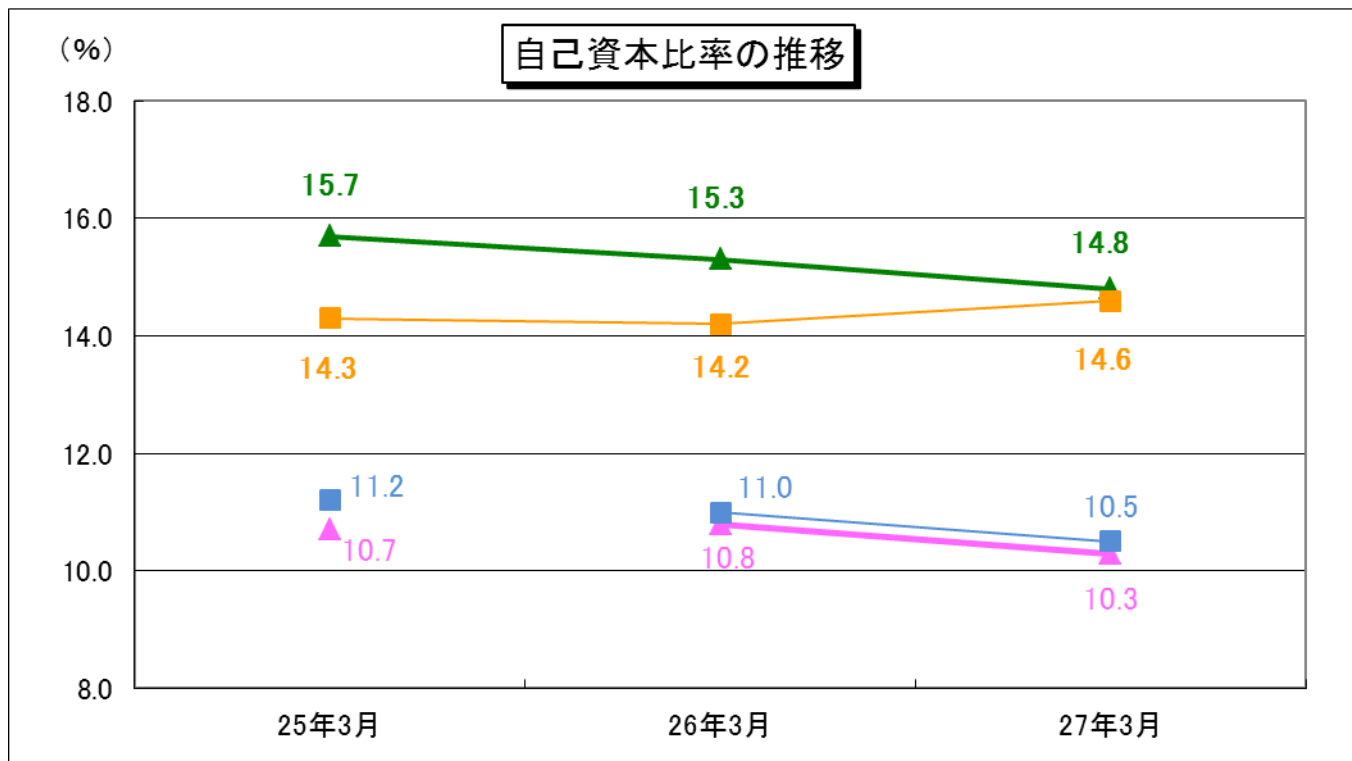


不良債権の状況



	24年3月期		25年3月期		26年3月期		27年3月期	
	管内	(参考)全国	管内	(参考)全国	管内	(参考)全国	管内	(参考)全国
不良債権額	9,139億円	6.8兆円	9,196億円	6.8兆円	8,174億円	6.2兆円	7,293億円	5.6兆円
不良債権比率	3.3%	3.2%	3.2%	3.1%	2.8%	2.7%	2.4%	2.4%

自己資本比率の状況



※国際統一基準行は25年3月期、国内基準行は26年3月期より、バーゼル3の適用を開始。

(25年3月期の国内基準行は、バーゼル2ベースの自己資本比率。)

※管内の国際統一基準行は、静岡銀行、名古屋銀行の2行。

※自己資本比率については小数点第2位以下は切捨て。